



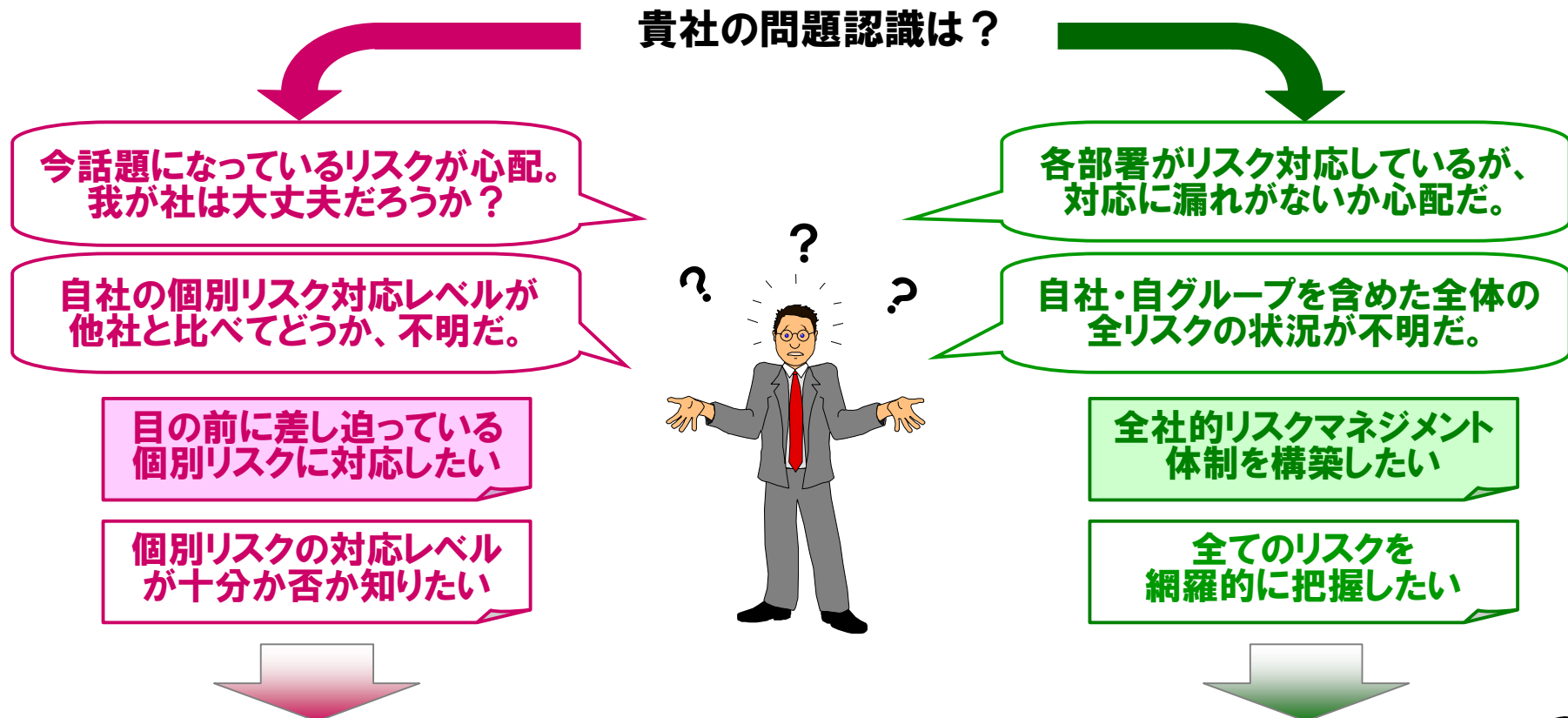
リスクマネジメントによる火災保険料コストの抑制

2010年1月28日

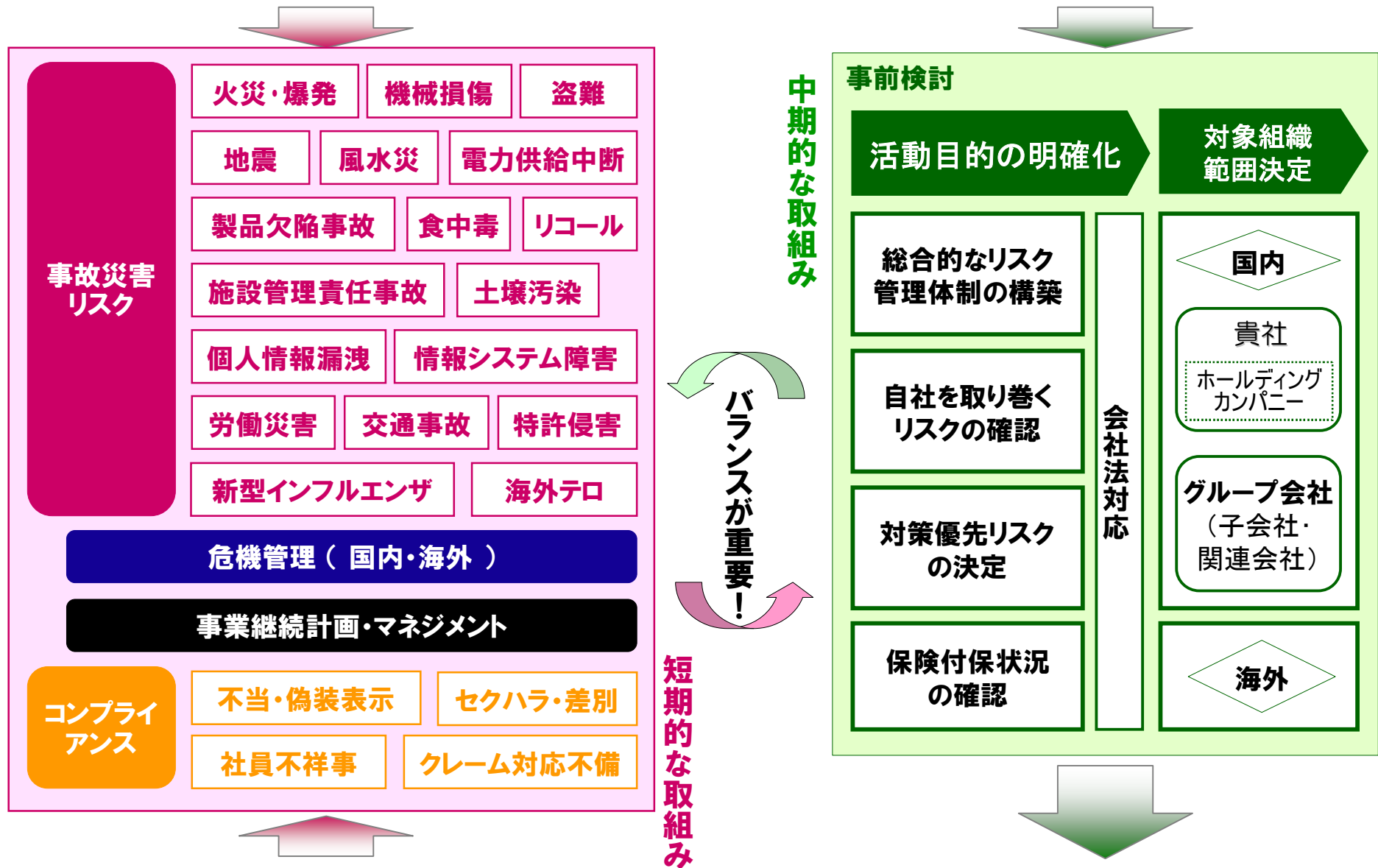
株式会社損害保険ジャパン
企業商品業務部
平野 貴之

1. リスクマネジメントの全体像

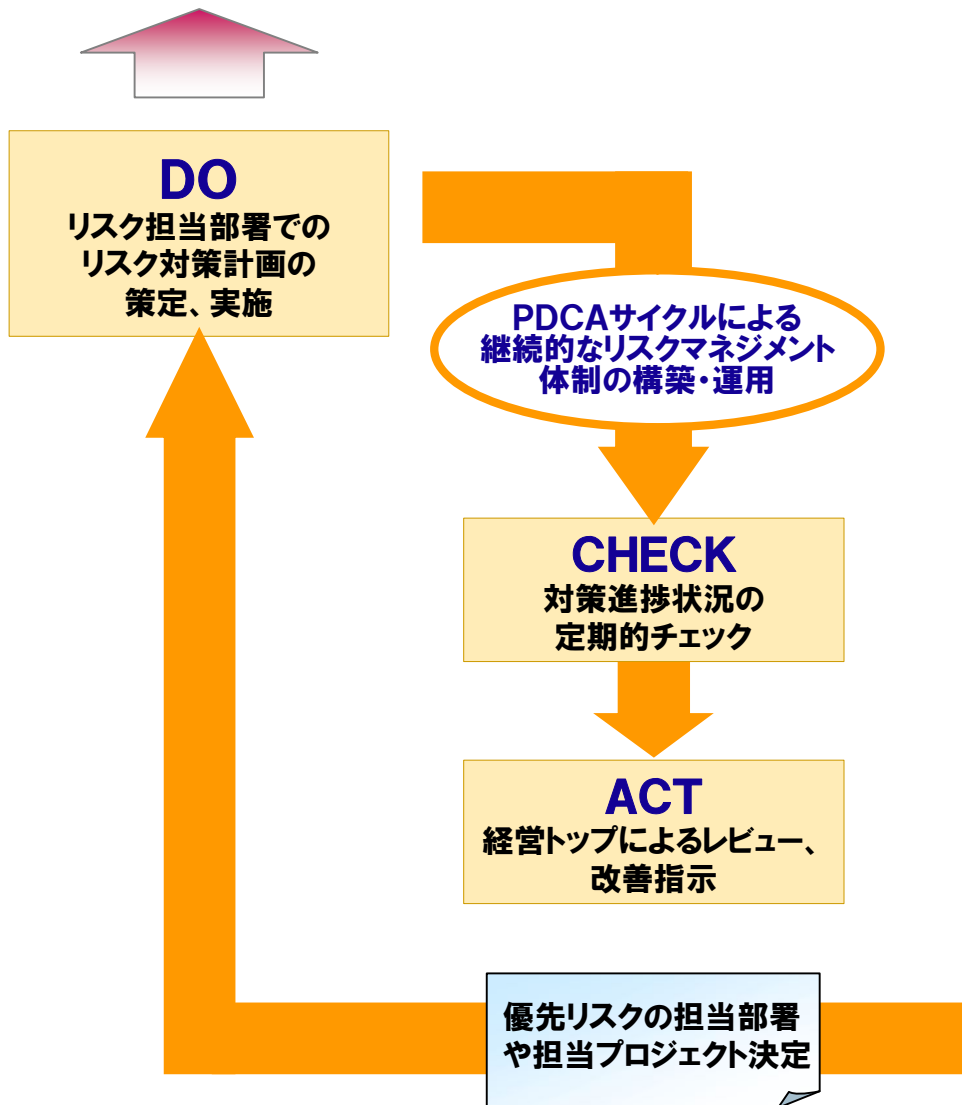
- ① リスクマネジメント活動は、大きく二つの流れがあります。まず下図の左側に示す目の前に差し迫っている個別リスクへの対応です。もう一つが下図の右側に示す全社的リスクマネジメント体制構築・運用です。
- ② この二つの流れで活動の全体像を整理することによって、より効率的で効果的なリスクマネジメント活動を推進することをお勧めします。



1. リスクマネジメントの全体像



1. リスクマネジメントの全体像



PLAN 総合リスクマップ

リスク洗出し

【リスク洗い出しアンケート調査票】

回答者部署名		〇〇部〇〇課		
氏名		山田太郎		
No	大分類	中分類	リスク	ワーストシナリオ
1	I 事故災害 リスク	A 事故 故障	火災爆発	〇〇工場の▲▲から火災が発生し、建 屋・設備が焼損、社員数名が死傷、2ヶ月 間生産が停止した。
2	II 業務リスク	F 情報 漏えい	個人情報 漏えい	情報管理不足により社員の個人情報を 保存したCDを紛失した。
3	III 財務リスク	L 経済	為替変動	為替予約手当にも係らず、急激で大幅な 円高が進んだために、巨額の為替差損 が生じた。

リスク算定

リスクマップ(例)

対策優先リスク決定

< リスクスコア表 >

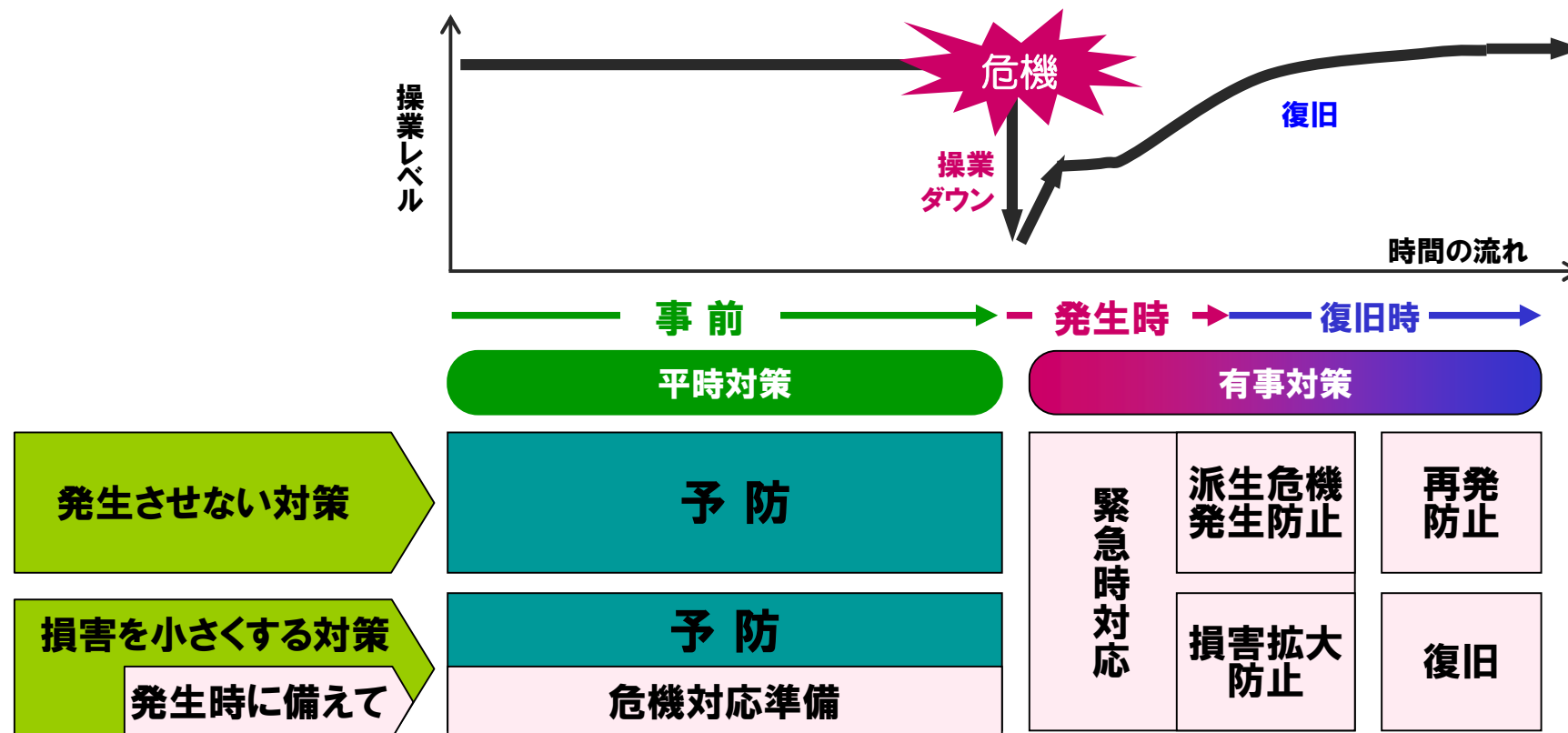
リスク項目	損害規模	発生頻度	重要度
・製品欠陥事故	・5	・2	・5
・火災爆発	・6	・2	・6
・為替変動	・4	・4	・1
・個人情報漏えい	・3	・4	・3
・〇〇〇〇〇〇	・〇	・〇	・〇
・〇〇〇〇〇〇	・〇	・〇	・〇

重要リスク
 ★★★★★
 ★★★★☆
 ★★★☆☆
 ★★☆☆☆
 ★☆☆☆☆
 ☆☆☆☆☆

2. 危機管理とは？

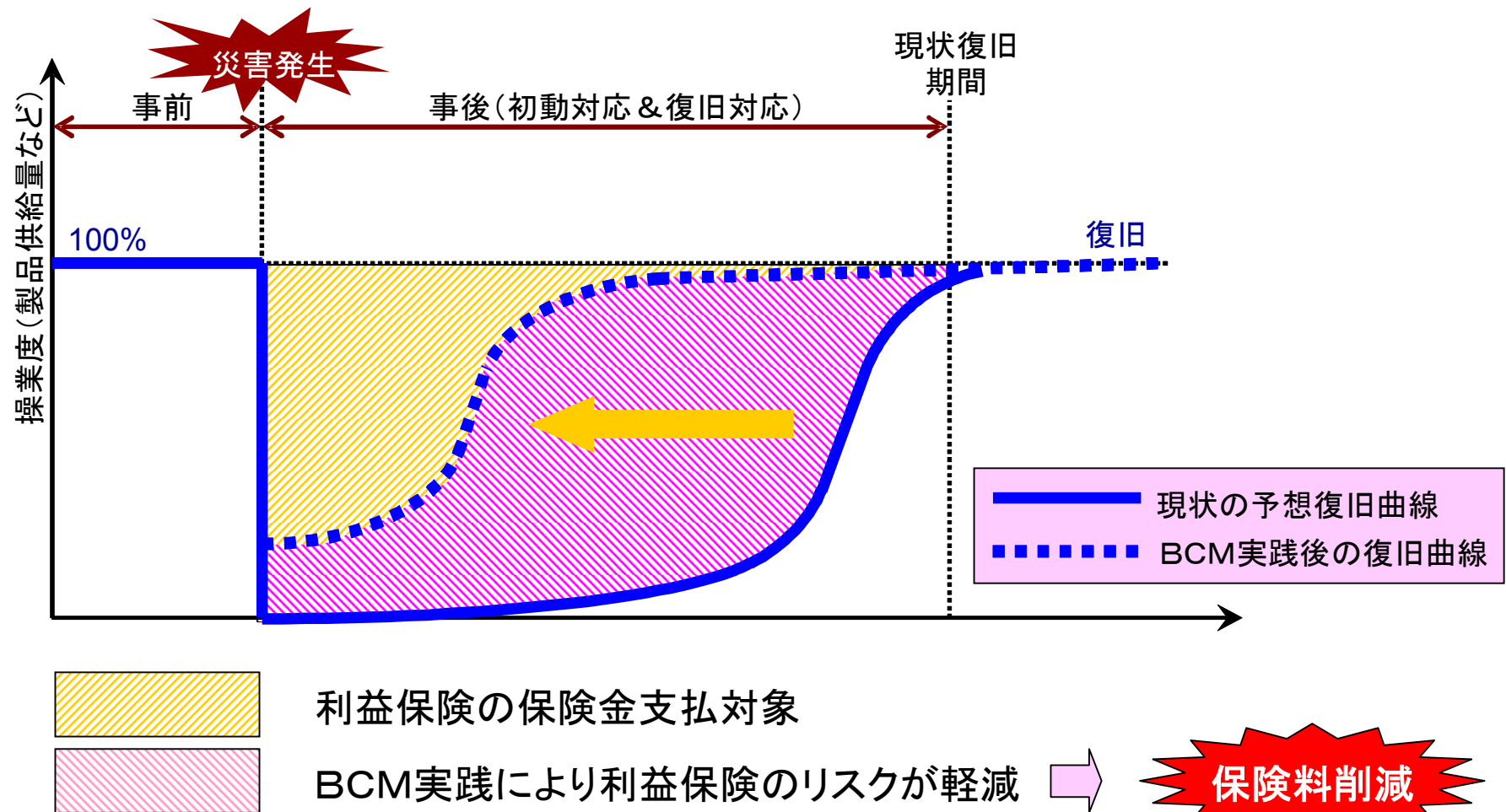
危機とは、突発的な脅威が発生し、その状況が顕在化して企業活動の継続を脅かすような恐慌状態のことです。

危機管理とは、危機を回避、抑制し、自立的な回復が可能になるまで回復することを目的とする組織経営に必要な機能です。



3. BCMの実践と利益保険の関係

BCM実践によって利益保険のリスクが軽減されます。
この結果、保険料を削減することができます。



4. 火災保険の保険料の算出方法

保険料の算出は、以下のステップで実施します。

① 規定保険料の算出

- ・ 火災保険の料率（保険料）は、保険の対象、補償内容、引受条件等により、**規定保険料**が算出される。
※料率算出機構の参考純率を基準としている。

② リスク判断による保険料の割引

- ・ 一定の基準を満たす契約については、個別のリスク判断により、**規定保険料を割引（割増）する**ことがある。
※リスク判断は、引受保険会社各社の基準による。

5. 「① 規定保険料」の考え方

「① 規定保険料」の考え方は以下のとおりです。

保険料算出の基礎

- ・ 建物の構造、所在地、業種などを基に基準料率を適用。
- ・ 消火設備の設置状況などにより割引を適用。
- ・ 補償期間の短縮、補償割合の縮小により割引を適用。

保険料を抑えるためには・・・

保険設計により、引受リスクを小さくすることで、保険料コストを抑えることができる。

5. 「① 規定保険料」の考え方

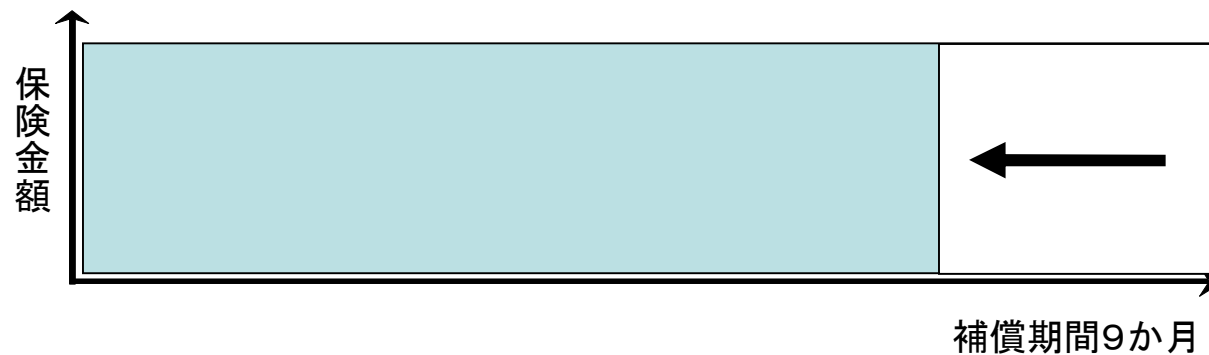
保険設計により、引受リスクを小さくすることで、保険料コストを抑えることができる。

■ 保険金額(営業利益+経常費) = 30億円



保険料(例)

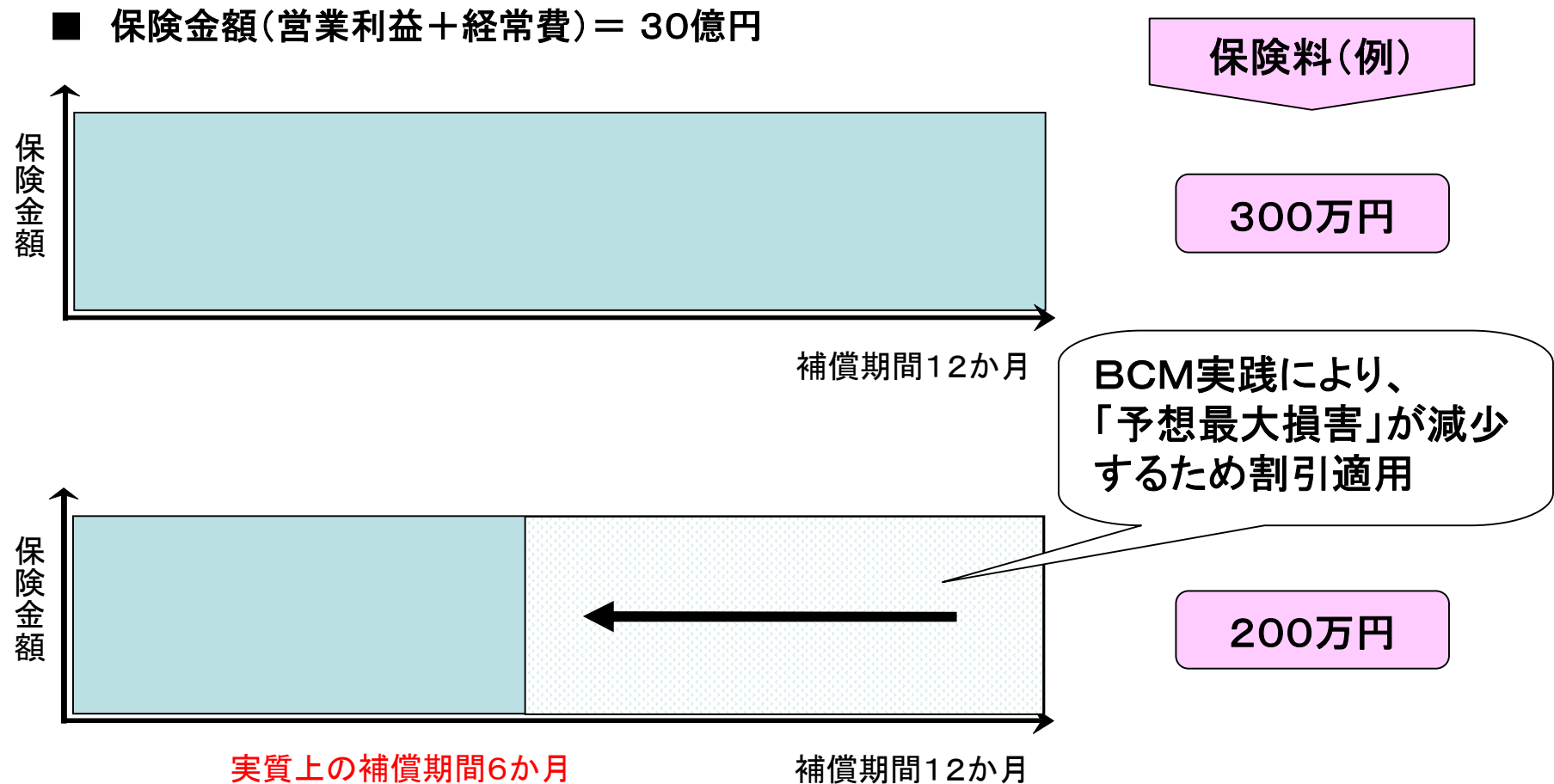
300万円



215万円

6. 「② リスク判断による保険料の割引」の考え方

引受リスクが同じでも、リスクマネジメント等によりリスク実態を良好にすることで、保険料コストを抑えることができる。



6. 「② リスク判断による保険料の割引」の考え方

主に以下の5つの要素により保険料を調整します。
利益保険、財物保険(物保険)により多少考え方は多少異なりますが、基本的な考え方は同じです。

リスク判断（保険料の調整）における5つの要素

- ① 建設状況 (Construction)
- ② 燃焼荷重 (Fire Load)
- ③ 防火設備 (Protection)
- ④ 防火管理体制 (Management)
- ⑤ 過去の損害率・罹災履歴 (Loss History)

6. 「② リスク判断による保険料の割引」の考え方

① 建設状況 (Construction)

以下の情報を基に、建物の燃えやすさ、延焼のしやすさ、類焼のしやすさを評価する。

- 建物の仕様：階数、床面積など
- 主要構造：基礎構造、設計基準（建設年）、防火区画など
- 主要構造材（柱、梁、天井、床、壁）、内装の材質
- 防火壁・防火扉：構造、対火時間、開口部の防護
- 避雷針：仕様、設置場所
- 周辺状況：空地状況、建物間距離など
- 地形、地質

6. 「② リスク判断による保険料の割引」の考え方

② 燃焼荷重 (Fire Load)

工場設備、原料、商品の可燃性、およびそれら可燃物の使用場所・使用量、管理状況を評価する。

- ・ 主要設備の仕様・材質、レイアウト
- ・ 製造プロセス、物の流れ、可燃物の種類・使用量
- ・ ユーティリティの仕様、設備仕様、設置場所
- ・ 電気制御盤の設置場所、配線経路、ケーブルの被覆の材質
- ・ 可燃物の種類・量・貯蔵場所・貯蔵方法、取扱い状況
- ・ 原材料・製品の種類・材質・数量・保管場所、保管状況

6. 「② リスク判断による保険料の割引」の考え方

③ 防火設備 (Protection)

突発的な火災発生時に、必要な消火活動を行うための十分な火災報知システムおよび消火設備が整っているか評価する。

- ・ 火災感知器のタイプ・数・設置場所
- ・ 火災警報・消火システムの管理状況（保守点検）
- ・ スプリンクラー設備の有無、仕様、管理状況
- ・ 屋外・屋内消火栓の設置場所・数、地下タンク仕様・場所、消火ポンプ使用・台数。およびその管理状況。
- ・ 消火器のタイプ・数・設置場所・設置状況・管理状況
- ・ 消防車の仕様・台数
- ・ 公設消防施設までの距離、消防車の台数、必要水量の確保
- ・ その他、リスク特有の設備

6. 「② リスク判断による保険料の割引」の考え方

④ 防火管理体制 (Management)

火災発生時に、実際に有効な消火活動を実施できる組織・教育・訓練体制が採られているかを評価する。

- ・ 防火管理体制（組織・人数・役割）
- ・ 管理マニュアルの有無
- ・ 責任の所在、従業員の役割分担の確認
- ・ 自衛消防隊の人数、管理体制
- ・ 従業員の教育・訓練の実状
- ・ 工事中、催事中の防火管理体制の実状

6. 「② リスク判断による保険料の割引」の考え方

⑤ 過去の損害率・罹災履歴 (Loss History)

当該リスクの過去の損害内容を分析する。
(過去20年、少なくとも10年程度)

- ・ 過去の事故内容
- ・ 事故の発生頻度
- ・ 再発防止策
- ・ 産業カテゴリー別の損害率平均値との比較